



## 暮らしと仕事に関する全国オンライン調査 2022 秋・2023 冬 調査結果

2023 年 4 月 27 日

### 1. 調査の概要

「暮らしと仕事に関する全国オンライン調査」（以下、SSJDA Panel）では、社会、経済環境が大きく変化するなかで、人々がどのような生活経験や意識、意見を持っているのか、またそれらがどのように変化してゆくのかを明らかにすることを目的としています。SSJDA Panel の 2021 年調査（Wave1）は、2021 年 2 月 25 日から 3 月 15 日にかけて実施されました。対象者は 2020 年（令和 2）年 12 月末日時点で日本在住の 20 歳～39 歳男女で、層化二段無作為抽出法により選定いたしました。具体的には、全国を 11 の地域に区分したうえで各地域を人口規模別（5 区分）に層化し、各層の規模に応じて調査地点数を配分しました<sup>1</sup>。全体で 100 地点を無作為に抽出し、続いて各地点から住民基本台帳にもとづき 50 名を無作為に選びました。5000 名の調査対象者に郵送で依頼状を送付し、調査への回答はウェブ（LimeSurvey）を通じておこなわれました。SSJDA Panel Wave1 への有効回答者数は 1329 名で、回収率は 26.6%です。調査への回答が完了した 1329 名の対象者には、謝礼として Quo カード 500 円分を調査終了後に送付いたしました。このうち、今後の追跡調査への案内送付を承諾し、かつ有効な住所情報が得られたのは 842 名でした。

また、2022 年 2 月には、上記の SSJDA Panel Wave1（2021 年サンプル）の調査結果などをふまえ、新たに調査対象者を追加いたしました（2022 年サンプル）。2022 年サンプルの第 1 回調査は 2022 年 2 月 22 日から 3 月 13 日にかけて実施されました。対象者は 2021 年サンプルと同じ出生年で、2021 年（令和 3）年 12 月末日時点で日本在住の 21 歳～40 歳男女です。選定方法も 2021 年サンプルと同様ですが、地点数は 150 地点、調査対象者数は 6600 名です。有効回答者数は 1576 名で、回収率は 23.9%でした。調査への回答が完了した 1576 名の対象者には、謝礼として Quo カード 500 円分を調査終了後に送付いたしました。このうち、今後の追跡調査への案内送付を承諾し、かつ有効な住所情報が得られたのは 1338 名でした。

2021 年、2022 年サンプルともに、2022 年秋調査（2022 年 10 月 4 日から 10 月 30 日）、2023 年冬調査（2023 年 2 月 14 日から 3 月 12 日）からは同一内容で調査を実施しています。追跡調査への拒否連絡のあった対象者を除き、秋調査には 2176 名、冬調査には 2172 名に調査依頼状を送付し、有効回答者数はそれぞれ 1596 名、1603 名でした（回収率は 73.3%、73.8%）。

この調査速報では、2022 年サンプルの基本属性（2022 年 2 月）、および 2022 年秋調査、2023 年冬調査の結果の一部を紹介いたします。

---

<sup>1</sup> 地域区分は 1. 北海道地区、2. 東北地区、3. 関東地区、4. 北陸地区、5. 東山地区、6. 東海地区、7. 近畿地区、8. 中国地区、9. 四国地区、10. 北九州地区、11. 南九州地区。人口規模の区分は 1. 大都市（政令市及び特別区）、2. 人口 20 万以上の市、3. 人口 10 万以上の市、4. 人口 10 万未満の市、5. 町村。

## 2. 2022年サンプルの性別・出生年の分布

はじめに、2022年サンプルの性別、出生年の分布（2022年2月調査時）を、2021年サンプルの結果（2021年調査時）と比較したものが図1です。2022年サンプルでは、43.4%が男性、55.2%が女性という結果でした。2021年サンプルの性別分布と比べると、ほとんど違いはみられませんでした。

出生年については、2022年サンプルでは1995-2000年生の割合が2021年サンプルの結果と比べて若干小さく見えますが、全体的には両者のあいだで分布は類似しているといえます。

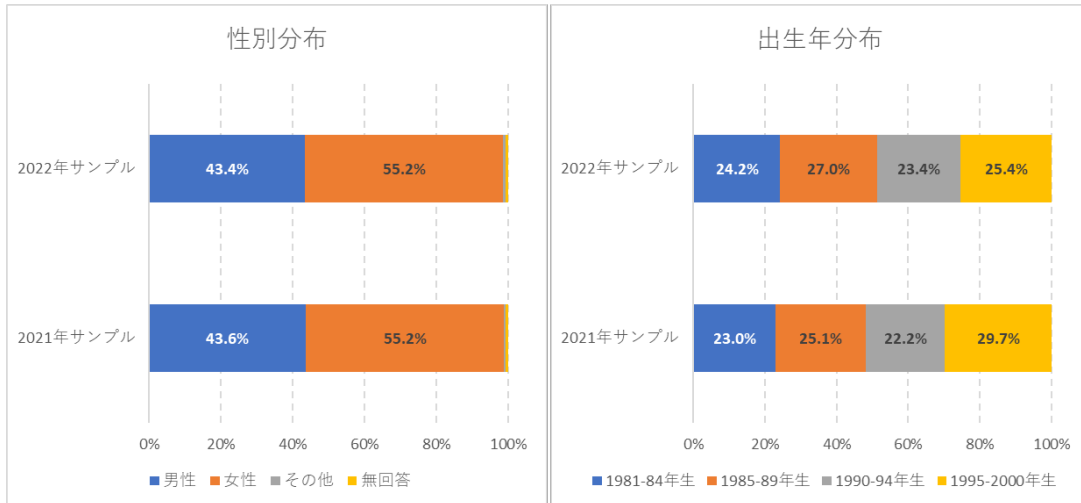


図1 性別・出生年の分布

## 3. 主観的ウェルビーイングの状況

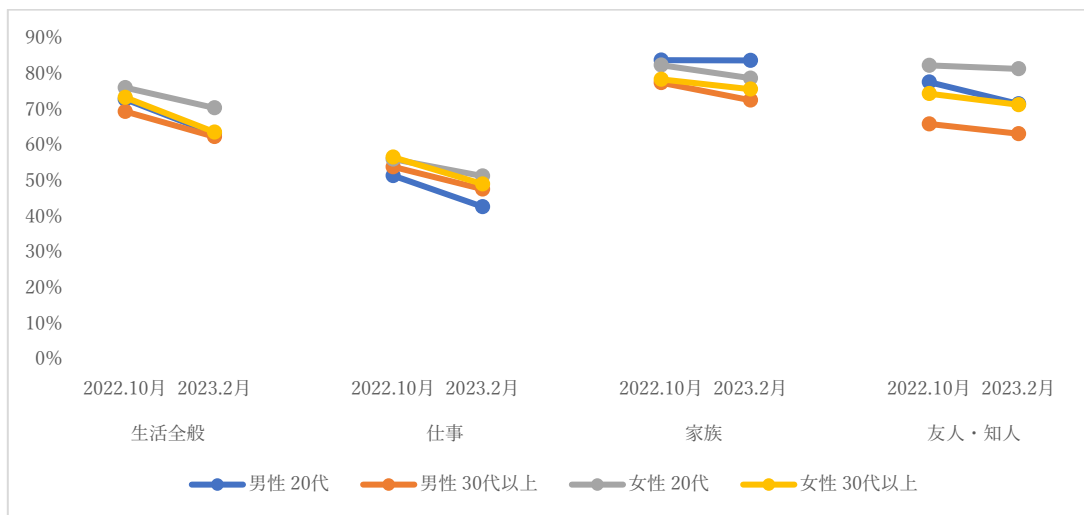


図2 4種類の満足度（「満足」と「どちらかといえば満足」の合計%）

続いて、2022年秋調査、2023年冬調査の結果のなかから、主観的ウェルビーイングと呼ばれる側面に関する集計結果を紹介いたします。主観的ウェルビーイングとは、自身の生活がどの程度うまくいっていると感じられるかを意味する概念で、自分自身のことに関するさまざまな意識、評価、態度によって把握されます。ここでは、生活満足度、幸福感、主観的な健康評価について、性別、年齢層別に集計

した結果を紹介いたします。

図2は、生活全般、仕事、家族との関係、友人知人との関係について、「満足」または「どちらかといえば満足している」と回答した方の割合を、性別、年齢層、また調査時期に分けてグラフに表したものです。2022年秋調査から2023年冬調査にかけて、すべての満足度が性別と年齢層を問わず低下していることがわかります。なかでも、生活全般と仕事の満足度の低下が比較的顕著です。性別と年齢層の違いについては、項目によって差の大きさに違いはありますが、概して男性より女性、30代以上より20代のほうが、満足度が高い傾向にあります。

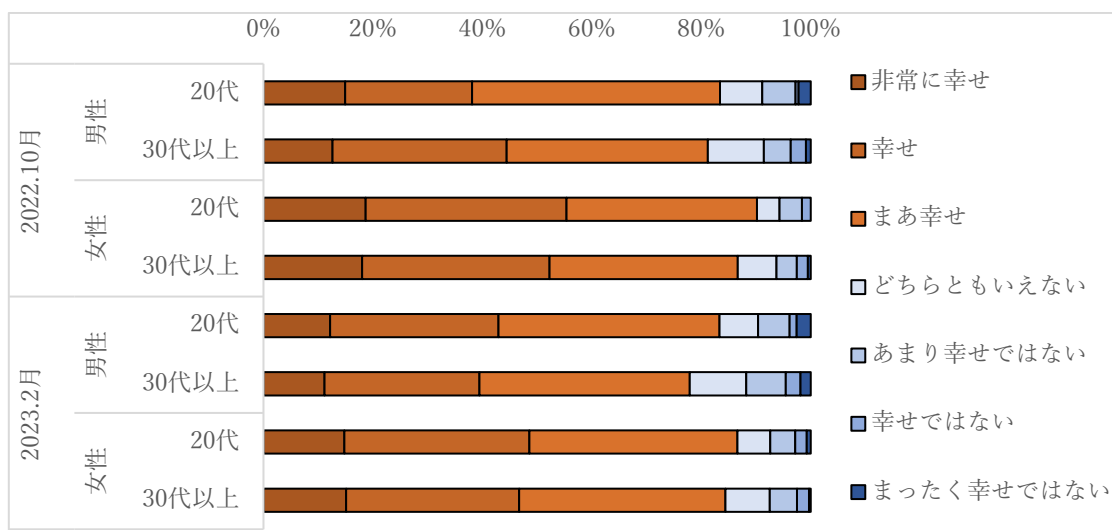


図3 幸福感

図3は、「あなたの今の生活は、全体として幸せだと思いますか。それとも幸せではないと思いますか」という質問に対する性別、年齢層、調査時期別の回答分布です。全体的に、70~80%の回答者がどちらかといえば幸せであると答えています。年齢層による違いはあまりみられず、男性よりも女性のほうが幸せであると感じる傾向がみられます。満足度とは異なり、幸福感については調査時期のあいだで明確な差がみられませんでした。

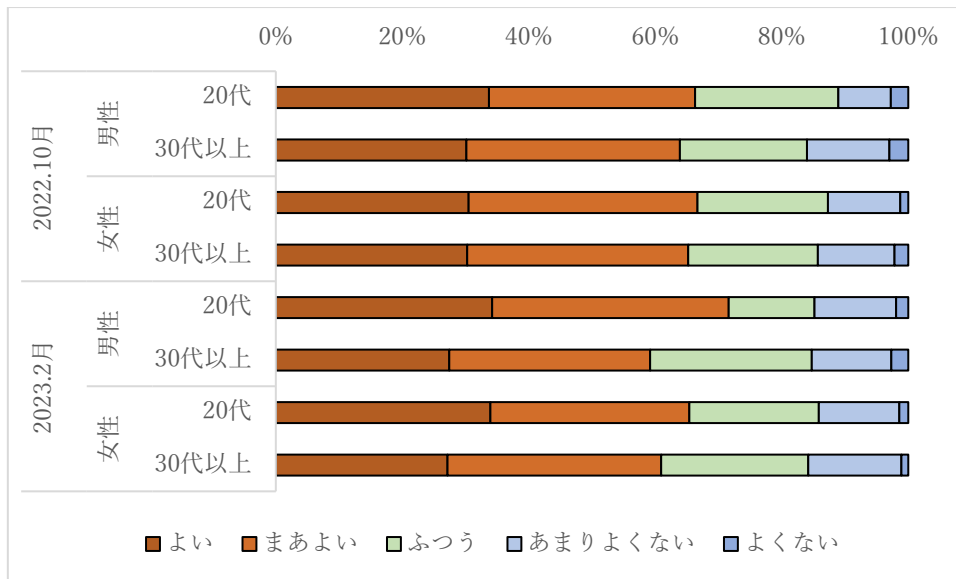


図4 主観的健康評価

図4は、自分自身の健康状態をどのように評価しているかに対する回答結果を示しています。「よい」と「まあよい」をあわせた割合は、いずれの場合でも60%程度です。性別や年齢層、また調査時期による違いはみられず、健康状態が芳しくないと感じている方が2割弱で推移しています。

#### 4. 国籍取得に関する意見分布

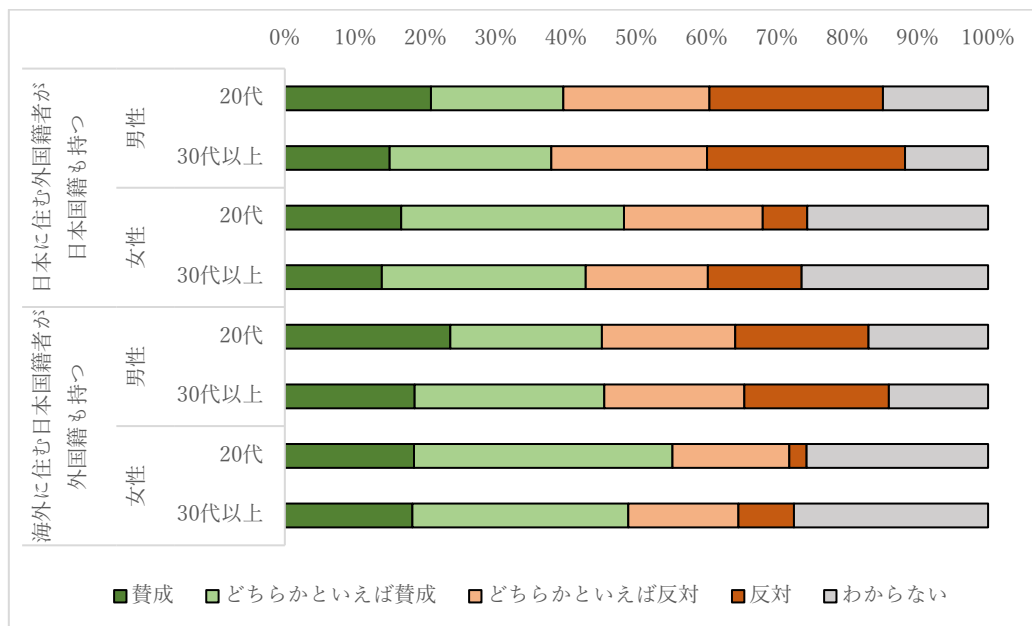


図5 重国籍に関する意見分布

以上のような主観的ウェルビーイングに関する質問は毎回の調査に含めていますが、SSJDA Panelではその他の社会や政治、経済に関するさまざまな意見も定期的、もしくは不定期に尋ねています。2023年冬調査では、重国籍の保有に対する態度についても尋ねました。現在の日本の国籍法では、日本と外

国の国籍の両方を持ち続けることが基本的に認められていません。その状況にかかわらず、「日本で暮らす外国籍者が、自分の国籍を保持しながら日本国籍を取得すること」と「海外で暮らす外国籍者が、日本国籍を保持しながら外国籍を取得すること」について回答者個人の賛否を尋ねた結果が図5です。

性別、年齢層にかかわらず、おおよそ4割程度の回答者が重国籍に対して肯定的な態度を持っています。年齢層のあいだでの差はみられませんが、女性の方が男性よりも賛成しやすい傾向にあるようです。一方、女性サンプルでは「わからない」という回答の割合が多いことも特徴的です。

## 5. おわりに

以上の結果は、学術的にも、またさまざまな政策を議論するうえでも重要な意味を持っています。今回の結果は意見の分布を確認したにとどまりますが、人々のあいだで意見が異なるのはなぜか、またその違いが人々の生活状況の反映であるのではないか、といった新たな疑問が生じます。意見の違いが純粹に個人的な価値観によるものではなく、何らかの社会的、経済的な格差・不平等を背景とするのであれば、単なる意見の違いとして片づけるべきではなくなります。格差・不平等の問題があるとすれば政策的な介入可能性を探る必要も生じてきます。また、誰が、何についてどのくらい負担すべきなのかは社会政策のなかでも特に論争的な問題です。これらの問題を丁寧に議論するためには、人々の生活状況と、さまざまな事柄に対する意見をできるだけ正確に測定する必要があります。

SSJDA Panel では、今後も追跡調査を通じてさらに検討を深めてゆきます。追跡調査の結果を踏まえることで、人々のあいだの意見の違いだけでなく、同じ個人のなかでの意見の変化がわかります。さまざまな角度からの検証が可能になることで、学術的、政策的課題に対してより妥当な因果的議論につなげることもできるようになります。SSJDA Panel の今後の活動に、ぜひご関心をお持ちいただければ幸いです。